

動物の診察室から

○ 80 ○

ダックスフントの「ジュディちゃん」は、13歳になる女の子です。今までは、皮膚炎を時々起こす程度で、大きな病気はありませんでした。

しかし、6月18日の夜に、突然けいれん発作を起こして来院しました。片方の目の視力はなく、脳の病気と思われるので、すぐにけいれんを抑える注射と、脳圧を下げる治療が始まりました。幸いにも翌日には視力が回復し、けいれん発作

も治まり退院したので、その後しばらくは発作もなく過ごしていましたが、7月10日に再度けいれん発作が起きてしまいました。高齡になってから起こるけいれん発作の原因は、脳腫瘍が一番考えられます。ジュディちゃんもその可能性があるため、7月14日に全身麻酔をかけ、頭部の造影CT検査を行いました。その結果、右の脳に大きな腫瘍があることが分かったのです。

## 抗がん剤投与開始

# 天寿まで後2年、頑張れ



抗がん剤投与後1週間、ジュディちゃんは目も見えるようになりました

残る治療は抗がん剤です。現在脳腫瘍で抗がん剤治療を行い、1年以上生きていく子もいます。脳腫瘍は、そのままにしておくと、脳圧が上がって突然死んでしまうこともあるのです。ジュディちゃんの今後の闘いは始まりました。お母さま、ジュディちゃんと一緒に頑張りたいですね。

療は6週間に1回、抗がん剤「ロムスチン」の内服薬を使うことにしました。そして、翌日に1回目の抗がん剤の投与が始まったのです。ジュディちゃんは13歳と高齡です。ご家族の方も、脳に腫瘍のあるジュディちゃん

の命が短いことを

も治まり退院したので、その後しばらくは発作もなく過ごしていましたが、7月10日に再度けいれん発作が起きてしまいました。

脳腫瘍の治療として取れる選択肢は外科的手術です。そして放射線治療、抗がん剤の投与で

ジュディちゃんの腫

瘍は脳の表面ではなく奥の方にあり、私の病院では手術はできません。放射線治療は、週に1回東京の獣医科大学まで通う必要があります。

ジュディちゃんの治療は6週間に1回、抗がん剤「ロムスチン」の内服薬を使うことにしました。そして、翌日に1回目の抗がん剤の投与が始まったのです。

